

珪藻類 *Nitzschia palea* を用いた応用生態工学的な 湖沼管理手法の開発に向けた基礎的研究

渡邊, 俊介

<https://hdl.handle.net/2324/4784591>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名	渡邊 俊介
論 文 名	珪藻類 <i>Nitzschia palea</i> を用いた応用生態工学的な湖沼管理手法の開発に向けた基礎的研究
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 久場 隆広 副 査 九州大学 准教授 広城 吉成 副 査 九州大学 教授 矢野 真一郎

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、湖沼における *Nitzschia palea* の増殖及びアオコとの競争関係に与える環境要因として栄養塩、水温、pH、照射光、付着基質の影響について検証したものである。また、得られた結果を基に、*N. palea* を用いた応用生態工学的手法に加えて、青色 LED の照射や付着基質の設置などを組み合わせることで、効果的に実現できるアオコ抑制手法を提案したものであり、水環境工学および応用生態工学上、重要な知見を得たものとして価値ある業績である。よって、本論文は博士 (工学) の学位論文に値するものと認める。